

1 平成21年5月の消費者物価指数等

- 広島市総合指数（101.2）は前月比で2か月ぶりに上昇。前年同月比は2か月連続で下落。
- 生鮮食品を除く総合指数（101.3）は前月と同水準。前年同月比は2か月連続で下落。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（99.5）は前月比で2か月ぶりに上昇。前年同月比は2か月連続で下落。

2 総合指数，生鮮食品を除く総合指数，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	101.2	0.1	▲0.9
生鮮食品を除く総合指数	101.3	0.0	▲1.0
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	99.5	0.1	▲0.4

3 前月からの動き

～主に食料，住居，交通・通信が上昇。光熱・水道は下落。～

(1) 10大費目の動き

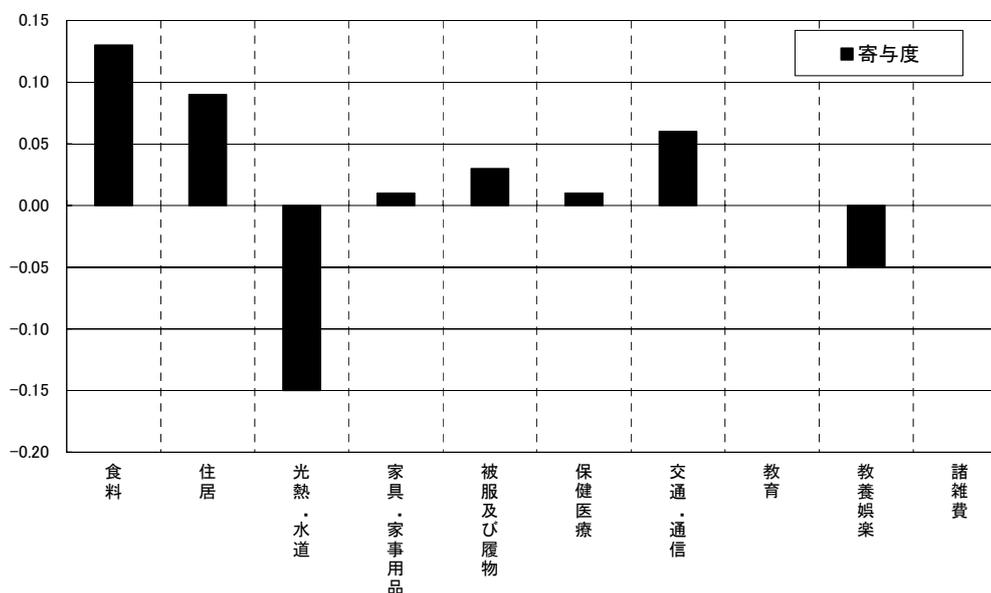
	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	101.2	104.7	100.7	107.2	88.8	107.4	98.5	97.2	106.0	95.0	102.4
前月比 (%)	0.1	0.5	0.5	▲ 2.1	0.2	0.5	0.1	0.5	0.0	▲ 0.5	0.0
寄与度	0.12	0.13	0.09	▲ 0.15	0.01	0.03	0.01	0.06	0.00	▲ 0.05	0.00

(参考) 主な要因となっている10大費目について，寄与の大きかった中分類項目

食 料 : 果物 (前月比 15.2%，寄与度 0.11) 等

住 居 : 家賃 (前月比 0.6%，寄与度 0.09)

図1 10大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度: 物価全体(総合)の上昇(下落)に，各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来，寄与度の合計は，総合指数の前(年同)月に対する変化率となるが，四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
項 目（主な品目名）	前月比	項 目（主な品目名）	前月比
果物（メロン 等）	15.2%	電気代	▲4.7%
家賃（持家の帰属家賃〔木造中住宅〕 等）	0.6%	野菜・海藻（きゅうり 等）	▲2.8%
自動車等関係費（ガソリン 等）	1.0%	教養娯楽用品（ペットフード〔ドッグフード〕 等）	▲2.3%
魚介類（たい 等）	2.9%	乳卵類（ヨーグルト 等）	▲1.2%
外食（カレーライス 等）	0.6%	穀類（食パン 等）	▲0.6%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：ガソリン，持家の帰属家賃〔木造中住宅〕 等

下落：電気代，ペットフード〔ドッグフード〕 等

4 前年同月からの動き

～交通・通信，教養娯楽が主な下落要因で，2か月連続で下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	▲0.9	1.3	0.0	▲1.8	▲3.9	1.7	▲0.7	▲6.0	0.9	▲2.3	0.9
寄与度	▲0.85	0.35	▲0.01	▲0.13	▲0.13	0.09	▲0.03	▲0.86	0.04	▲0.23	0.06

(参考) 主な要因となっている10大費目について，寄与の大きかった中分類項目

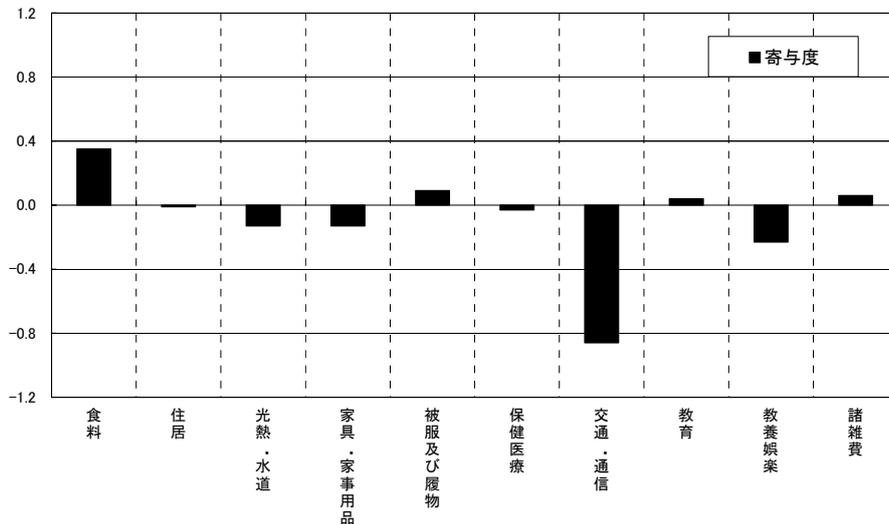
光熱水道：他の光熱（前年同月比▲33.5%，寄与度▲0.14），

交通・通信：自動車等関係費（前年同月比▲10.3%，寄与度▲0.81）等

教養娯楽：教養娯楽用耐久財（前年同月比▲27.6%，寄与度▲0.15）等

教養娯楽サービス（前年同月比▲1.5%，寄与度▲0.09）等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
費 目（主な品目名）	前年同月比	費 目（主な品目名）	前年同月比
穀類（食パン 等）	4.1%	自動車等関係費（ガソリン 等）	▲10.3%
洋服（婦人スーツ〔春夏物〕 等）	4.1%	教養娯楽用耐久財（パソコン〔ノート型〕 等）	▲27.6%
外食（ビール〔外食〕 等）	1.6%	他の光熱（灯油）	▲33.5%
野菜・海藻（トマト 等）	3.5%	家庭用耐久財（ルームエアコン 等）	▲12.0%
菓子類（キャンデー 等）	3.3%	教養娯楽サービス（外国パック旅行 等）	▲1.5%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：カーテン，トレーニングパンツ 等

下落：ガソリン，灯油 等

一時下落も足元では値上げ続く

広島市の5月のエネルギー指数（104.8）は前年の急激な上昇を受けて、前年同月比では11.2%減と大きく下落しました。

ただし、短期的に見ると、これは電気代やガス代などの光熱水道の値下げが大きく、ガソリンや灯油は前月比で上昇しています。

そこで、それぞれについて、ガソリン価格や灯油価格への影響が大きいとされる、WT I 原油価格を参考に、その価格動向を追ってみました。

なお、広島市のガソリン価格については、原料費の影響を顕在化するため、ガソリン税を1ℓ当たり53.8円控除し、暫定税率が失効した平成20年4月については失効後の28.7円を控除しています。

また、ガソリン価格については、小売物価統計調査結果の平成21年4月分まで、WT I 原油価格について、直近では6月8日を、時系列では月末価格の推移を使用しました。

WT I 原油価格とは

WT Iとは、世界的に注目される原油価格の指標で、ウエスト・テキサス・インターミディエート（West Texas Intermediate）の略です。ニューヨーク・マーカンタイル取引所(NYMEX)において取引されている原油価格の先物で、この値動きが世界の原油価格の指標として大きな影響を与えるので注目されています。

図1 ガソリン価格はWT I 原油価格に対して、およそ3か月遅れで推移していましたが、最近は価格改定の頻度が上がり、ほぼ連動して推移するようになっていることがわかります。

図2 灯油価格については連動性がみられるものの、ガソリン価格に比べ、価格の変動がやや緩やかで、WT I 原油価格の反発のあった平成21年2月は、暖房などの冬季需要が減少する時期と重なったためか、ガソリン価格のような上昇は見られませんでした。

図1 広島市のガソリン価格とWT I 原油価格の推移

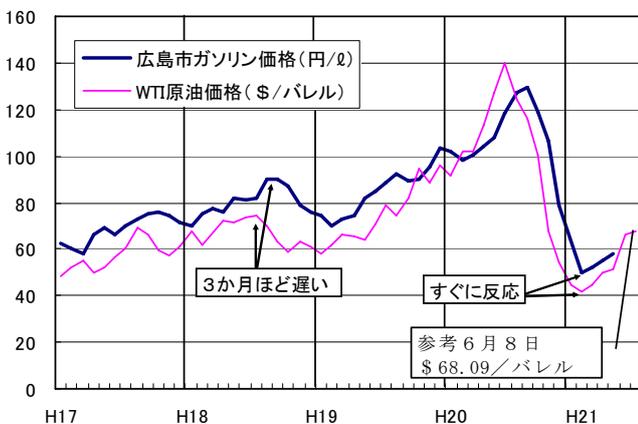
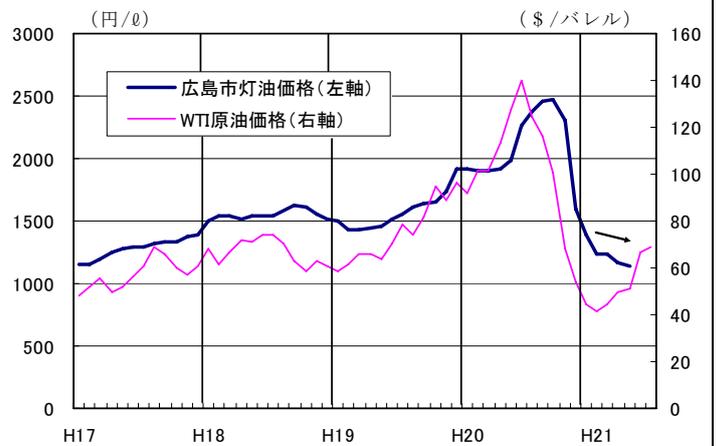


図2 広島市の灯油価格とWT I 原油価格の推移



以上のように、ガソリン価格はWT I 原油価格と連動性があることがわかります。

直近の価格推移をみてみると、WT I 原油価格は再び上昇しており、これが反映されれば、ガソリン価格はさらに上昇すると考えられます。

また、灯油価格についても、下落のペースが鈍化していることから、今後の価格動向には注意が必要です。